



皇學館 第39号

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大学
大学院・専攻科・文学部・教育学部・
現代日本社会学部・社会福祉学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校 三重県伊勢市楠部町138
【高校】〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
【中学】〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

●今号の注目記事

- 1面 雅楽部が二年ぶりの奉納演奏
- 2面 自己分析講座で“自分軸”を発見
- 3面 学生が地域活性化にチャレンジ
- 4・5面 輝け! 皇學館の星 活躍する生徒・学生を紹介
- 6面 保護者会総会開催 歌舞伎鑑賞会感想 ほか
- 7面 平成24年度 夢の会総会及び役員会報告
- 8面 南開大学と協定締結

●連載

- 2面 皇學館人物列伝⑦ 野間光辰
- 7面 先輩、お元気ですか 山崎奈穂氏 (文学部教育学科第46期・平成23年卒)

雅楽部が一年ぶりの奉納演奏

神宮・参集殿

西日本各地で厳しい曇りとなった七月十五日、本学雅楽部が神宮・内宮の参集殿能舞台において奉納演奏を行った。この演奏会は毎年の恒例行事として開かれているが、昨年は参集殿の改修工事に伴い中止。そのため、今年是一年ぶりの開催となった。

雅な音色に心癒す

雅楽部では神宮の楽師から指導を受け、各楽器の演奏をはじめ合奏、舞・祭祀舞などの稽古に励んでいる。今回の演奏会に向けては三週間前から合奏を中心に調整。曲目は越天楽、五常楽急、



暑さをしばし忘れ、舞台に見入る観客。写真に収める人の姿も見受けられた。

浦安の舞、蘭陵王、長慶子の五曲で、一年生十三人、二年生九人、三年生四人の計二十六名が舞台に立った。会場となった内宮・参集殿には七月十五日が三連休の中というところもあり、多くの参拝客が詰めかけた。奉納演奏会は午後一時半から開演。屋内のみならず、建物周辺でも偶然居合わせた観光客などたくさんの方が足を止め、舞台から流れて

くると雅な調べに聴き入っていた。大阪府から訪れたという二十歳代のカッパルは「同年代の人がこうした舞台で立派な演奏をしていることに感動した。普段、雅楽を聴くことはなく、伊勢神宮で聴けたことに凡ミスが出てしまった」とも。十一月に開かれる定期演奏会に向けてさらに練習を積んで、観客のみならず楽しんでいただける演奏をしたい、と意気込む。

仲間を信じ、音を一つに

毎日午後四時半から八時までと、いつもより一時間半延長してこの日に備えてきた雅楽部。部長で神道学科三年の一原昂貴君は「普段は個別で練習することが多いため、当初は音がまとまらずバラバラで心配した」と舞台裏を明かす。「でも、練習を重ねるうち日増しに揃うようになった。指揮者がいない雅楽は仲間を信じて一つの音を奏でるもの。本番はみんながよくやってくれたおかげで、練習以上の力が出せた」と顔をほころばせた。

「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されたのを機に平成十七年に発足した国際熊野学会は、熊野の魅力の世界に発信することを目的に、全国各地に点在する熊野に関わる土地の研究や環境保全に尽力している。今年度の総会テーマは「神と仏の世界」。本大会ではとくに神仏習合について伊勢の方から光

伊勢から「熊野」を考える

国際熊野学会大会を開催

六月二日、本学において平成二十四年度国際熊野学会大会林雅彦代表が開催された。会場には学会関係者や熊野学に関心を持つ一般市民などおよそ二百名が集い、熱心に聴講した。



特別講演をする半田教授

を当て、熊野の謎に迫ろうというものだ。神宮のお膝元にある本学文学部は、平成二十年に「みえ熊野学研究会」と学術協定を締結している。今回の本学での開催は、聖地・熊野と伊勢を結びつける、非常に意義深い大会といえよう。

「山岳修験の教化と参詣」と題し基調講演を行った林雅彦明治大学教授

ほか、新宮市立図書館山崎泰氏「明治維新期の熊野」文学資料などからみた神仏分離、長野市郷土史研究会会長小林一郎氏「信州善光寺と熊野信仰」の研究発表があり、予定の四時間が瞬く間に過ぎ、盛り上がりを見せた。翌三日のフィールドワークでは、本学大島信生教授、斎藤平准教授が引率。外宮、内宮のほか別宮へも参拝。参加者は来年に迫る式年遷宮の意義を実感。熊野と伊勢の関わりを体感した。新宮から参加した女性は「いろいろ視点から熊野を見つめ直すことができた」と語り、全国からの参加者も、強い刺激と満足感が得られた様子だった。

学生が文化発信の担い手に

「横丁塾」で平安朝装束体験+雅楽ミニ演奏会

五月二十七日、午前十時から午後四時の間、内宮前かけ横丁において、文学部神道学科本澤雅史教授を塾長として、祭式研究部・雅楽部の学生による第九回「平安朝装束体験+雅楽ミニ演奏会」が開催された。平成二十二年三月に始まった「横丁塾」は株式会社伊勢福の協力を得て、おかげ横丁の一角「大黒ホール」を会場に開催している。神道の祭りにおいて着用される「衣冠」や「狩衣」、また「浦安の舞装束」や「女子神職の装束」の着付け体験を通して、神道の伝統文化に触れてもらおうという狙いだ。この催しには毎回、三十名ほどの若男女が参加し、好みの装束を身にまとう。家族全員、装束姿で記念撮影をされる方、平安朝の新郎新婦さながらの男女のペア、装束を着けるお子さんを撮影しながら見守る両親……体験者はみな一様に貴重な参宮記念となっている。また、装束の着付けを通して学生たちとの触れ合いの場にもなっている。



浦安の舞装束・女子神職の装束を身にまとう母子

前号に特集されていたように、四月二十九日から三十日にかけて本学創立百三十周年・再興五十周年記念行事が挙行された。三十日の記念式典では彬子女王殿下の御台臨を仰ぎお言葉を賜った▼女王殿下はお言葉の中で、父君の寛仁親王殿下が皇學館・國學院・学習院は貴重な校風を持つ言わば「姉妹校」であること常日頃おっしゃっていたことを明らかにされた。本学関係者はもとより、伝統ある三校が手を携え、今何を為すべきかを熟考し、我が国の真の発展に努力することに期待を寄せられた▼今年のは、古事記撰上千年三百年の記念の年でもある。古事記によって、我々は日本の神話・歴史・文学・文化のすばらしさを知ることができる。本学でも古事記撰上千年三百年記念行事が九月二十一日に挙行される。これを機に一人でも多くの人々に古事記の豊かな世界に触れてもらいたい▼「稽古照今」(古を稽今を照らす)という言葉は古事記序文に由来する。本学節目の年に、本学の歴史に思いを馳せ、女王殿下のお言葉を重みを噛みしめたい▼寛仁親王殿下は六月六日に薨去されました。謹んで哀悼の意を表します。



自己分析講座で自分軸を発見

入学時からキャリア形成を支援

教育開発センターでは一環として、五月から六月一年生のキャリア教育の一環として、外部講師に



自己分析の方法について、外部講師から丁寧な説明を受ける学生

よる「自己分析・自己理解講座」を実施した。本学では今年度から全学的にキャリア教育に取り組んでいるが、学年によって内容は異なる。一年生については全員が自らの生涯にわたるキャリアを見据えながら、まず「大学四年間で何をどのように学ぶか」を考えてもらう授業を設定した。この授業には学内の教員全員が携わり、文学部・教育学部では入学当初の「初学」で、現代日本社会学部においては「キャンパスセミナー」の中で

きめ細かい指導がなされている。今回の「自己分析・自己理解講座」はこの授業に付加する形で実施されたもので、各学科・クラス単位で行われた。「自己分析」という言葉を耳にしたことはあっても、具体的なやり方を知っている学生は少ない。講座では主としてグループワークを展開。「自分を何かに例えるなら」といった質問に対してそれぞれの意見を交換する形式がとられた。学生は当初とまどっている様子もあつたが、講師の的確なアドバイスや促しによって途中から流れをつかみ、終盤には白熱した議論があらわらへて見られるようになった。

講座修了後は、これも今年度から設置したeポ

ートフォリオ「mandai」に受講を振り返った感想を書き込んでもらっている。それによれば、多くの学生が「自らがどのような存在であるかを深く考える機会になった」「他者から見た自分を知ることができた」などと語り、自分軸を発見、再確認するきっかけとなった。

今後キャリア教育のさらなる充実を図り、学生の支援を実施していく。

月例文化講座が開講50周年 本年度は「文化とことば」をテーマに 年7回開催



熱心に聴講する大勢の受講者の皆さん

一般市民を対象に無料の公開講座として親しまれてきた月例文化講座が今年、開講50周年を迎えた。同講座では一年を通じてのテーマを各学部学科が持ちまわりで設定しており、本年度は文学部「コミュニケーション学科」が担当。テーマ「文化とことば」のもと、五月から十二月まで（八月を除く）、月一回の予定で講義を開く。

五月十二日の土曜日、午後二時から四号館四三一教室で開かれた第一回講座は、「日本人はなぜ英語が苦手なのか」と題し、英語科教育法や時事英語などの科目を担当する豊

住誠教授が講演した。国際化が進むなか、最近英語を社内の公用語にする日本企業も現れるなど英語力がいっそう求められているが、勉強してもなかなか成果に結びつかず伸び悩む人は多い。豊住教授はその理由を、「日本語と英語の構造が大きく違つたため」と説明。文法や語彙、発想などさまざまな観点から事例をあげて紹介した。例えば、英語は物の数をはつきりさせる。私は猫が

好きと言う場合、いろいろな猫を指していることが明白なため「like cats」と猫を複数形にして表現しなければならない。日本人が言いがちな「I love cats」では「猫の肉か毛皮が好きだ」と受け取られてしまうという。また、日本の英語教育がかつての文法偏重からコミュニケーション重視に変わってきたものの、「コミュニケーションを会話と同列に捉えてしまったことが問題」と豊住教授。文法や読みはやはり大切で、話す内容の質を高めるために教養や日本語の教育も求められると説いた。

最後に、どのように英語を勉強していけば良いのか、社会人の聴講者にとってアドバイス。まず、英語を読むときは前から順番に意味のまつまり毎に理解していく同時通訳的な読み方をしていくと効率が良いこと。もう一つは、インターネットなど身近にある良い教材を利用すること。例えばNHKの海外向けの英語放送は日本についての内容なので大変理解しやすいという。「身近なところから少しずつ英語に親しんでいただければ」と講演を結び、会場からは温かい拍手が贈られた。

増井節郎氏が本学名誉教授に



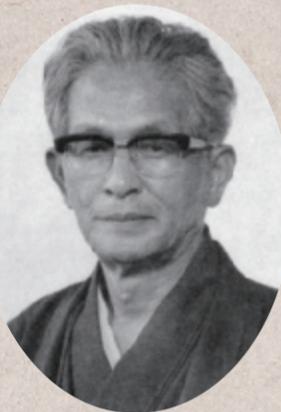
今年三月に定年退職された文学部コミュニケーション学科前教授の増井節郎氏について、本学における四十三年の長きにわたる奉職、また、柔道を中心とする武道教育者としての高い貢献等を鑑み、本学名誉教授の称号が贈られることとなった。

増井氏は昭和二十二年、三重県生まれ。昭和四十年に第四期生として本学文学部に入学し、卒業と同時に本学副手として採用された。その後、講師、助教を経て平成五年には教授に昇格。平成二十四年三月末日に定年退職を迎えるまで、四十三年にわたり奉職された。その間、文学部教養科主任や文学部コミュニケーション学科主任等の役職を歴任。授業においては主に共通科目の柔道を担当し、コミ

ユニケーションの観点からスポーツの役割を再評価するなど新たな視点での講義も行った。クラブ活動では柔道部長として学生を指導。近年では女子団体チームを全日本大会出場へと導くなど多くの功績を残している。自身も柔道実践家として活躍し、学生時代は国体への四年連続出場、昭和五十年の三重国体では教員の部の大將として出場し、全国準優勝を果たした。柔道段位は七段（平成五年取得）。三重県の柔道界においても役職を歴任し、現在は三重県柔道協会副会長を務めている。

皇學館 人物列伝 17

西鶴研究の泰斗、鬼の野間



学究としてのその真摯で、峻厳な姿を人は「鬼」と呼んだ。戦後の井

原西鶴研究のパラダイムを構築し、さらには現在の近世文学研究の方法も、野間のそれに依拠するところが大きい。かりそめにも近世文学の研究する者、一人として彼の「西鶴年譜考証」を知らずとはいえない。

明治四十二年（一九〇九）神戸に生まれ、大阪で育つ。父は堂島米穀取引所の立場、生野中学の入学式に制服を準備する経済的余裕さえなかつたという。後年野間は、そんな「少年時代の自分に、勇氣と自信を与えてくれたのが、同中学校の国語科教師、久保田早苗・田中東三郎・谷忠政の三先生だった」と回顧する。三

野間光辰

のまこうしん

氏共に神宮皇學館本科の出身者である。昭和八年（一九三三）京都帝国大学卒業、その後京都大学文学部教授を経て、昭和四十八年本学文学部教授として着任。

戦前は、聴講者に官憲の交じる会場でも、平然と浮世草子の好色物語り、戦後は学生運動による大学の荒廃を大いに嘆いた。面白いエピソードがある。昭和四十年代、ヘルメットをかぶってキャンパスを占拠する学生の向こうを張って、野間は羽織袴に陣笠をかぶって登校することがあったとか。話の真偽はともあれ、本学においても羽織袴を常とする姿に、一種文人の風格と、カリスマ性が漂った。

学会の権威でありながらも、反骨

の人であり、「米屋の弟子」「乞食坊主」との一期一会を大切にしている人でもあった。昭和三十年代のことか、京都四条大橋で道行く人に寄附を乞う僧と出会う。その後十有五年、約して毎年秋にこの「乞食坊主」と落ち合ひ、瓢正なる行きつけの料理屋で酒を酌み交わしたという。最後の時、僧は野間に象牙の縷子環を渡し、野間また僧に常に携帯する斑竹の矢立を与えた。縷子環は、曹洞・臨済の禅僧が小さな袈裟（縷子）につける環。かくして、この面妖な環には紐がつけられ、終生にわたって野間の首から胸に垂らされることになる。

昭和五十七年、定年により本学を辞す。その際、次の言葉が学生に贈られた。「汝、倉陵に学びしことを誇りとせよ」「我、倉陵に教へしことを誇りとせよ」。厳しきの中にも、常に学生と、大学への温かい眼差しがあった。国文学科教授 高倉一紀

学生が地域活性化にチャレンジ

学内プロジェクト公開プレゼン



プロジェクトの計画性や広まりが期待できるか、などが審査のポイントとなった

学生が主体となって学校や地域を活性化させてほしいと、名張学舎で始まった「学内プロジェクト」。その意志を引き継ぎ、学生委員会が中心となって同プロジェクトを進めている。今年度は二件の応募があり、七月五日に公開プレゼンが行われた。

学内プロジェクトへの応募要件は二種。一つは学校を活性化させる「学内活性化プロジェクト」、もう一つは地元貢献あるいは協働で進めていくことのできる「地域との連携プロジェクト」で、どちらかのテーマを満たす必要がある。今回応募があった二件は両方後者で、それぞれのチームは上限二十万円の予算獲得をめざし約十五分間の公開プレゼンに臨んだ。

社会学科三年の井上綾佳さんと山崎理沙さん。二十名弱で活動するこのチームは地域活性化に取り組み全国の大学生が集うイベント「全国まちづくりカレッジ2012」の開催校に決まったことを受け、立候補した理由やイベントを運営する過程で学生同士や地域の人々との交流を深め、学び合う場にしたと訴えた。

次にプレゼンしたのは「べかプロジェクト」チームだ。代表で同学科二年の堤健人君は昨年引き継ぎ東日本大震災の被災地に漁具や支援物資を送る企画を提案。活動の中で岩手大学のボランティアサークルや近隣地域との連携を強めることができ、ひいては地域復興支援の方法等を学べると熱く語った。

ともなったようで、先生の助言を真剣な表情で聞いていた。プレゼン後、井上さんと山崎さんは「準備不足だった」と反省しきり。勉強会を開いて伊勢の知識をもっと増やし、内容を充実させたいと話していた。堤君は被災地の絞り込みや現場ニーズの把握が甘かった点を見直し、アドバイスを踏まえぜひともプロジェクトを成功させたいと意気込んでいた。

第二回「こころ小路ツアー」を開催

オープンキャンパス

梅雨の晴れ間が広がった七月十五日、本学において第二回となるオープンキャンパス「こころ小路ツアー」が開かれた。

本学では学生が中心となって各催しの企画、運営をしている。来場者はそれぞれ志望する学科の教室を訪れ、模擬講義や体験型プログラムなどに熱心に耳を傾ける光景が見られた。たとえば、神道学科は装束の着方や作法を解説し来場者の興味を誘っていた。国文学科では『西遊記』の成り立ちなどを中心に説明。国史学科は独自の神道思想を持つ本居宣長の生き方を紹介しつつ、大学生活での勉学の大切さについても触れていた。



教育学科体験型プログラム「草花あそび」の様子

学生時代、アメリカナイズされたものが時代の先端でした。外国学部英米科に進学したのも、アメリカ音楽の影響などアメリカのサファルチャーへの興味が強くなり、英語運用能力と英語の背景にあるアメリカそのものを勉強したかったからです。大学はカトリックで、外国人教授の多くは神父様でしたが、海外の大学で教鞭を執っていた日本人の教授もたくさんいらっしゃいました。米国の政治の教授はコロンビアにボタニカウムのシャツを、英国史の教授はハンチングに皮の肘当ての付いた上着を着て、国際色豊かな方ばかりでした。今も印象に残っているのは「近代」の授業で、リレー形式で毎回違う分野の教授が近代を定義するものでした。半年後、授業の中でその先生方が一堂に集まって近代をテーマにしたディスカッションがありました。考え方の違いから意見が対立し白熱した討論会となり、聴講している私達学生はただ唖然と見守るだけでしたが、その時「答えが一つでないのも沢山ある」

私の学生時代

リレーエッセイ

西洋と比較し日本を意識



皇學館中学校 教頭 服部 円美
南山大学外国語学部英米学科卒

と気づき、勉強の面白さを発見した気分になりました。卒論は「アメリカ社会におけるマイノリティのアイデンティティについて」というテーマでした。卒論を通して、我々日本人は一族で同じ歴史、文化を共有しているため、日本人であることを意識することがいかに少ないかを再認識しました。大学時代から茶道を始め、今も続けていますが、英米に傾倒していた私が、茶道を通して日本の良さを感じ、西洋と日本を比較しながら日本人としての自分を強く意識するようになりました。神道の学校に勤め「自然の全てに神が宿っている」という考えや、遷宮という行事の中に脈々と続く「形あるものはなくなっても心や技は伝えられる」という考えが、自分の中に確実に根付いています。「世界の中の日本」を意識した上で、日本の素晴らしさを世界に発信する手段として、英語力は不可欠だと思います。生徒達にもそのような気持ちを持って世界で活躍する人物になって欲しいと思いつつ、教員を続けています。

お仕事拝見

若い力で伊勢の産業に活力を!!

私の部署、産業支援課では、雇用の創出や地域産業の振興を目的として、「企業力の強化」、「起業家の支援」、「伝統工芸の振興」や「企業誘致」などの事業に取り組んでいます。

身近なところでは起業を希望する方に、伊勢市産業支援センターの起業家支援室等のスペースを提供するとともに、当センターの創業支援員が資金の確保や販路開拓などの経営手法をアドバイスしています。

皇學館大学では地域の活性化を狙ったビジネスプランコンテストが開催されていますし、在籍中に移動販売事業を起業した女子学生



奥野喜久 伊勢市産業観光部理事 (兼 産業支援課長)

があるなど若い元気な力が育っていることを感じます。起業に関心のある方は、ぜひ一度当センターにお越しください。

次に伝統工芸の振興ですが、当市は神宮・鎮座のまちとして数多くの伝統工芸がありますが、需要

の低迷、後継者不足など様々な問題を抱えています。そのような中、今年二月には現代日本社会学部の岩崎先生をはじめ学生の皆さんにご協力いただき、シンポジウム「伊勢の伝統工芸」を開催し多くの参加者に理解を深めていただきました。

また、首都圏を中心に伊勢の良さをPRし伊勢に合った企業の誘致や、市内で活躍されている企業の事業拡大なども応援し、もっと元気になってもらうための事業を展開しています。

皆さん方、若い世代が「伊勢で働き」、「伊勢で暮らし」、「伊勢を誇りに思う」活力ある伊勢市を目指し私たちの部署は日々業務を行っています。

みんなの支えに感謝

第五十一回 寮祭を終えて

教育学科二年 大橋 拓・本谷紅葉

初めての経験だったため、試行錯誤の日々。さらに、今年からは寮生への負担を考慮しダンス等の練習時間をこれまでの半分に減らしたので、不安を抱

えたまま寮祭当日を迎えました。いざ始めると、そこには私たちの心配を吹き飛ばすように、今までの練習では見ることがない

が幅広い分野を扱うことに感銘を受けたと話し、「今日の模擬講義も面白かった」と興奮気味に答えた。松阪から友人四人で訪れた高校三年の女子は「教員志望。勉強が嫌いな生徒にはどうすればイヤじゃなくなるか、といった具体的な話が役に立った」と将来像に思いを馳せ感想を述べた。



上/寮祭のテーマ「想」を火文字で表現 下/競技種目の1つである「台風の目」に真剣に取り組む寮生

朝から雨が降り続いていたのでため息がでるほどでしたが、夜には雨が上がり何とか成功。忘れられない一日となりました。最後に、パトリーターをはじめ、寮祭を陰で支えてくれた二年生にはとても感謝しています。また、一年生は自分たちの経験を生かして、伝統ある寮祭を来年度入寮してくる新入生に伝えていってほしいと思います。

中学



姉妹で 珠算 1級満点合格!

3年 中西 亜衣さん ◆ 1年 中西 亜友さん



中西亜衣さん、亜友さん姉妹が珠算1級で満点合格する快挙を成し遂げた。ふたりとも合格は果たしていたものの、〈満点〉にこだわりたいと粘り強く挑戦。姉の亜衣さんは今年2月、妹の亜友さんは同6月の試験でついに目標を達成した。「6度目にしてやっと満点をとることができました」と嬉しそうに話すのは亜衣さんだ。週2回のそろばん教室に加え、家でもコツコツと練習。数字の書き方も見直してスピー

ドアップを図るなど、万全を期して臨んだ。現在は珠算3段、暗算4段の腕前。ゆくゆくは「10段をとりたい」と目を輝かせる。

「努力すれば報われるところが好き」とそろばんの魅力を語るのは亜友さん。家ではお互いをライバルとして意識しながら特訓を重ねていたという。自他ともに認める負けず嫌いの性格で、次の目標は「お姉ちゃんよりも先に10段をとること」と闘志を燃やす。

引込み思案な性格を直そうと、小学校3年生のとき親に勧められて入った地元の将棋クラブ。そこで、めきめきと頭角を現し、今や数々の大会で好成績を収めているのが瀧直哉君だ。5月に行われた第18回読売権争奪戦A級将棋大会においては優勝。第33回全国中学選抜将棋選手権三重県予選男子の部においては第3位に輝いた。

「勝つと嬉しくて」将棋にどんどのめり込んでいったという瀧君。居飛車系の戦法を得意とするが、大人を相手にすると気持ちの上で負けることがあるそうで、「羽生善治棋士のように、冷静で終盤からでも逆転する粘り強さを見習いたい」と話す。また、将棋を通じて友だちも増えたと言い、学校の将棋部ではほかの部員と一緒に天童市で毎年開催されている全国大会出場をめざして研さんに励んでいる。



2年 瀧 直哉君
読売権争奪戦
A級将棋大会で優勝

バドミントン・四日市ジュニア オープンで2位

2年 笹 渕 康 孝 君



6月23日に開催された四日市ジュニアオープンバドミントン大会において、笹渕康孝君が中学校2年男子の部で2位に輝いた。「走ったり腕を振ったりジャンプしたり、いろんな動きができるスポーツ」とバドミントンの面白さを語る笹渕君。お父さんの影響で幼い頃から始め、小学6年のときには全国大会に出場していた実力の持ち主だ。一方で、「精神的にまだまだ弱いし、基礎体力もない」と冷静に自己分析。最近は筋トレをしたり、すばやい動きを身につけるため〈10秒以内に素振りを10回〉といったノルマを課して練習に取り組んでいる。前回の中体連伊勢度会大会では惜しくも3位に終わったといい、その雪辱を晴らすべく、初優勝をめざしてラケットを振る日は続く。



スローガンは“be proud”。上位入賞者が続々 皇學館大学柔道部

本学強化指定クラブでもある柔道部の大躍進に注目が集まっている。6月30日に津市で開かれた柔道大会においては男子73キロ級で稲田達哉君が優勝。同部としては40数年ぶりの快挙だ。ほか、同90キロ級では加藤佑之介君が3位、女子52キロ級は菅沼舞衣さんが3位、同52キロ超級で北川ひとみさんが3位と大健闘を見せた。強くなったきっかけは、春に行った試合で高校生を相手にこてんぱんにやっつけられたこと。別の試合でも6敗1引

き分けという無様な結果に、指導する佐藤先生が檄を飛ばした。「悔しくないのか？誇りはあるのか！」——以来、部員たちは“be proud”をスローガンに掲げ、緊張感をもって練習に打ち込むように。実戦形式のメニューや〈負けたら腕立て〉といった罰ゲームを取り入れたことも功を奏し、つらくとも楽しみながらハードな内容をこなしている。前述の稲田君は「技のこと以外にも疲労回復には豚肉が効くとか、栄養面のアドバイスまでしてくれる」と佐藤

先生に全幅の信頼を寄せている様子。また、「部員同士の仲が良く、団体戦では仲間のために絶対に勝とうという気になる」とチームワークの良さに胸を張る。8月下旬に行われる東海学生柔道大会の結果が楽しみだ。



「練習はつらいけど楽しい」と話す稲田君

大学



★輝け! 皇學館の★

皇學館には勉強はもちろんのこと、クラブや趣味に熱心に取り組み、活躍している生徒や学生が大勢います。興味や関心を持ったことにとことん打ち込んでみることは、自分の中にある可能性を引き出す大きなチャンス。さまざまな分野で力を発揮している生徒・学生たちを紹介します。

高校

柔道・2階級で 全国大会出場

3年 萩 優次君 (90キロ級)
3年 熱田 桂也君 (100キロ級)



柔道部では90キロ級・100キロ級の2階級で全国大会出場を果たした。奮闘したのは3年の萩優次君と熱田桂也君だ。

萩君は幼稚園の頃から柔道をはじめ、小中時代は数々の大会で上位入賞するなど名を知られていた。その分、研究しつくされ、負けを期すこともたびたび。そうしたなか、「勝ち急ぐな」と言われたのがきっかけで自分の柔道を見つめ直すようになる。「思えば、強引に攻めていったところで逆に返し技を狙われ、負けることが多かった」。そこで、すかし方や引き際を見極め落ち着いた

柔道をとるようになったところ、今回の結果に。全国大会では「勝ちにこだわりたい」ときっぱり。最低でもベスト8、と意欲を語る。「きつい練習をこなすことで忍耐力や体力がついた」と話すのは熱田君だ。練習メニューの後に腕立てを200~300回行うなど精神的にも肉体的にもハードな内容だが、投げ出さずやり抜くことで自信がついたという。前は2回戦で負けているので、今回は1つでも上を狙いたいとこちらも気合い十分。1試合1試合、集中して取り組みたいと抱負を語った。

3年 野地本 溪君 剣道・高校総体で優勝。全国大会へ!

剣道部主将の野地本溪君が三重の高校総体・男子個人の部で優勝。全国大会への出場を決めた。「高校になってから腕が上がった」と野地本君。剣道部では月に2回ほど遠征に行くなど他校生と交わる機会が多く、「自分のレベルの低さを思い知ったことで練習にも一層熱が入るようになった」という。また、我流の癖なども指摘され直すようになった。

変わったのは剣道だけではない。顧問である尾上先生の「強くても、私生活が乱れていたら意味がない」との教えを胸に、道に落ちているごみを積極的に拾ったり靴を揃えたり、清々しい気持ちで毎日を過ごせるよう心がけている。「全国大会では三重県代表、皇學館代表として恥ずかしくない試合をしたい」との言葉に期待は膨らむ。



国史学科4年 倉田千裕さん ラジオパーソナリティとして活躍中



毎週日曜、ラジオから聞こえてくる元気な声。鈴鹿ヴォイス FM (78.3 MHz) の情報バラエティ番組「めっちゃずか!」の日曜パーソナリティとして活躍する倉田千裕さんだ。担当するのはお昼12時から午後3時までの3時間。生放送であるこの番組を、大学2年の9月から受け持っている。

大学2年の4月に同ラジオ局の「声優・アナウンサー育成セミナー」に参加したことが発端だった。「よく通る声をしている」と素質を認められ、パーソナリティに大抜擢。今ではすっかり「日曜の顔」として定着している。台本はなく、生放送なので体調管理や言い直しができないなどプレッシャーは大きいはずだが、「人と話すことが大好きなので、楽しくて仕方がない」と動じる風もない。モットーは「とりあえず、やってみよう!」。その行動力で次々とチャンスや縁を引き寄せる、倉田さんの今後に注目だ。

美声を生かし、南仏の音楽祭へ

教育学科3年 楠 竜矢君



津市で活動している合唱団「ヴォーカルアンサンブル EST」の団員として活躍しているのは楠竜矢君だ。合唱を始めたのは、高校時代、担任の先生に誘われたのがきっかけ。それまで、とくに音楽に興味を持っているわけではなかったが、何人もの声が重なり美しいハーモニーを生み出す合唱の魅力に惹かれ、今では若手ながらもコアなメンバーに。男声の中低音を担うバリトンとして、毎週日曜に行われる練習には欠かさず参加している。

この合唱団が7月23日から南フランスで

行われるコンサートツアーに招待され、楠君もメンバーとして出場することになった。「一昨年、ブルガリアで開催されたヨーロッパングランプリに参加した時、聴衆の方々から割れんばかりの拍手をいただき感動しました。今回も、ヨーロッパならではの反応や会場の雰囲気を楽しみたい」と楠君。将来は保育士をめざしているといい、美声のわらべ歌で子どもたちを魅了する日も近そうだ。



保護者会総会を開催

五月十二日、皇學館中学校 セミナーホールにおいて皇學館高等学校保護者会総会が開催された。



滞りなく進行した保護者会総会

開会にあたり平成二十三年度保護者会会長の村瀬敬一氏より挨拶があり、その後、協議事項へと入っていった。昨年度の事業報告・決算報告・監査報告が承認された後に役員改選が行われ、新会長には津谷剛氏を選出。続いて平成二十四年度の事業計画・会計予算の審議が行われ、原案通り承認された。すべての協議事項が終了した後、多田教頭より本年度から本校に赴任した七名の新任教職員が紹介された。

続いてスクリーンを使って学校の取り組み、学校の様子の紹介があった。学習チェックシート・朝テスト・表現力講座等の取り組みから、進路指導の様子や昨年度の卒業生の進路状況、国際交流活動や部活動の様子など、たくさん写真を見ながらの説明に参加者はみな熱心に聞き入っている様子だった。



保護者同士、歓談する光景が見られた

引き続き開催された（株）引き続いて開催された（株）クルートの梶原博史氏の講演会「進路選択で大事にしたいこと」では、熱心にメモをとる保護者の姿があった。

さらに、大学の倉陵会館で催された懇親会では料理に舌鼓を打ちながら話が盛り上がり、和やかな雰囲気になりました。高校の後援会会長の村瀬敬一氏の一本締めで閉会となった。

約百名の保護者が参加

三年生保護者対象 進路説明会

五月十九日は三年生の、六月二日には一・二年生の保護者を対象に進路説明会が開催された。

三年生対象の説明会には多忙にもかかわらず約百名の保護者の皆様に参加していただき、有意義な時間となった。

第一部では、進路指導部から昨年度の進路状況の報告の後、今後の進路決定スケジュール

ールと入試の実際を説明。さらには受験期のコミュニケーションについてお話をさせていただきました。その後、学年主任より学年の現状とともに進路決定における今後の指導についての説明があった。

第二部では、河合塾の上田浩司氏を講師に迎え、「親と子の大学入試」とのテーマで講演が行われた。大学入試を取



受験を控え、多くの保護者が参加した

り巻く環境の変化からご子息の受験のお話まで交えていただき、保護者の皆様の熱心に聞き入る姿が印象的だった。

私どもは生徒の希望に寄り添って、その希望がかなうよう応援し続けたいと思っております。最後になりましたが、参加していただきました保護者の皆様に御礼を申し上げます。今後ともよろしくお願いたします。

進路指導部

「生徒全員で盛り上げたい」

校友会総会を開催

五月十九日に校友会総会が開催され、昨年度の事業報告、決算報告、そして今年度の事業計画、予算案について発表された。総会は質問などがあ

も具体的にどういったところにお金が使われているかなど、質問をして納得することが大切だと思う。校長先生が話されたように、校友会活動は生徒全員で盛り上げたい。

総務副委員長 江川真林

学校見学会 開催のお知らせ

日時 ● 9月15日(土)・10月20日(土)・11月17日(土) 午前10時より(12時30分終了)
場所 ● 皇學館高等学校
内容 ● 記念講堂・校舎内見学
吹奏楽部によるコンサートなど
持ち物 ● 筆記用具、スリッパ

- 来校の皆さんに学生食堂での昼食、または軽食をご用意させていただきます。
- 校舎内見学後に、クラブ活動の見学も承っております。
- 保護者の方もご参加いただけます。

右記日程以外の見学も可能です。お気軽にお問い合わせください。 ☎0596・22・0205

皇高 NEWS

皇中 NEWS

皇學館大学から四名の実習生

平成二十四年度 教育実習



生徒とすっかり仲良くなり、ハイチーズ!

六月十八日から三週間に渡り、教育実習が実施された。今年度は国語二名、英語一名、社会一名の計四名の皇學館大学からの実習生となった。最初は緊張してなかなか打

て先生方の授業を見学し、少しでも自分の成長となるようにアドバイスなどを活かす努力をしていた。最終日は各クラスで実習生にサプライズプレゼントが用意されていた。実習生は、生徒の「ありがとうございました」の言葉に実習期間の終わりを実感し、別れを惜しんでいた。

歌舞伎鑑賞会の感想

六月二十六日、全校生徒一五七名が名古屋御園座において歌舞伎を鑑賞した。感受性豊かな年代のうちに本物の伝統芸能に直接触れることは、その素晴らしいを知る第一歩。以下に、生徒の感想を紹介する。

客も役者

三年B組 上中美律

お客さんとのつながりと、舞台上での迫力にすごく驚かされました。「待ってました」などの掛け声によって会場と舞台が一体になり、会場のすべてが歌舞伎の物語になっていったと思います。

多彩な面から楽しめる

二年A組 西川修平

席に着いてからまず幕の紹介があり、何枚も幕が出てきたので驚きました。何枚も幕があるのを見たのは初めてだったので、「夏夜盗浪花鑑」落しでは大名が必死に素襦を

日本の文化をもっと知りたい

一年B組 松岡美月

同じものを使っているのに、日常の風景や怒っている気持ちや、美しく舞っているところなど、あれほど違ってくるものかと驚きました。

私は歌舞伎を初めて鑑賞して感動しました。最近韓国・アメリカの音楽やドラマ・アニメで、身のまわりで外国文化ばかりが溢れている気がしていたからです。歌舞伎の華やかな衣装、メイクなどで三階までびっくり聞かせる声に驚きましたが、「女形」おやまという役をする男優さんのことは事前に説



初めての歌舞伎鑑賞に興奮気味の生徒

日時 ● 9月30日(日) 午前9時30分より(11時30分終了)
場所 ● 本校セミナーホールおよび各教室
右記の日程で学校説明会を開催いたします。当日は学校や入試の説明を行うほか、体験授業もごさいます。ふるってご参加ください。(予約はいりません)

学校説明会 開催のお知らせ

日時 ● 9月30日(日) 午前9時30分より(11時30分終了)
場所 ● 本校セミナーホールおよび各教室

第33回 皇中祭 開催日 ● 11月3日(祝)・4日(日)
入学を希望する小学生と保護者に公開いたします。

平成23年度 収支決算報告

学校法人皇學館の平成23年度決算は、平成24年5月28日(月)開催の理事会で承認されましたので、ここにその内容を公表します。なお、公式ホームページ (<http://www.kogakkan-u.ac.jp>)の大学概要のIR情報の事業報告平成23年度にて、教育研究機関・事務組織・在学生数・入学生数・卒業生数・進路(就職)状況及び法人の事業実績、決算の詳細説明を公開しておりますので、併せてご覧ください。

平成23年度収支決算書は、以下のとおりです。

1 資金収支計算書

この計算書は、企業会計におけるキャッシュフロー計算書に近いもので、当該会計年度の教育研究活動及びその活動に付随する全ての資金の動きと内容を明らかにすることを目的としています。

資金収支計算書(法人全体)

平成23年4月1日から平成24年3月31日 (単位:千円)

科目	予算	決算	差異
●収入の部			
学生生徒等納付金収入	3,744,163	3,714,150	30,012
手数料収入	73,198	81,201	△8,003
寄付金収入	69,906	99,211	△29,305
補助金収入	721,090	785,398	△64,308
資産運用収入	44,695	51,280	△6,585
事業収入	58,700	41,708	16,991
雑収入	135,433	168,087	△32,654
前受金収入	720,588	754,175	△33,587
その他の収入	741,507	722,012	19,494
資金収入調整勘定	△872,078	△910,918	38,840
当年度資金収入合計①	5,437,202	5,506,304	△69,104
前年度繰越支払資金	1,284,575	1,284,575	
収入の部合計	6,721,778	6,790,883	△69,104
●支出の部			
人件費支出	2,660,205	2,634,022	26,182
教育研究経費支出	977,722	907,393	70,328
管理経費支出	417,206	411,665	5,540
借入金等利息支出	7,219	7,218	250
借入金等返済支出	43,750	43,750	0
施設関係支出	595,294	597,802	△2,508
設備関係支出	132,484	116,993	15,490
資産運用支出	298,103	313,604	△15,501
その他の支出	260,990	262,016	△1,025
資金支出調整勘定	△93,241	△89,439	△3,801
当年度資金支出合計②	5,299,732	5,205,024	94,708
次年度繰越支払資金	1,422,045	1,585,855	△163,810
支出の部合計	6,721,778	6,790,883	△69,104
当年度資金収支差額①-②	137,470	301,280	△163,812

2 消費収支計算書

この計算書は、企業会計における損益計算書にあたるものであり、帰属収入(負債とならない収入)から基本金組入額(施設や設備などの取得にあてる額)を控除した消費収入と消費支出を比較して均衡状況を明らかにすることを目的としています。

消費収支計算書(法人全体)

平成23年4月1日から平成24年3月31日 (単位:千円)

科目	予算	決算	差異
●消費収入の部			
学生生徒等納付金	3,744,163	3,714,150	30,012
手数料	73,198	81,201	△8,003
寄付金	77,406	104,802	△27,396
補助金	721,090	785,398	△64,308
資産運用収入	44,695	51,280	△6,585
事業収入	58,700	43,085	15,614
雑収入	182,044	214,698	△32,654
帰属収入合計①	4,901,296	4,994,616	△93,320
基本金組入額合計	△583,737	△580,785	△2,951
消費収入の部合計②	4,317,559	4,413,831	△96,272
●消費支出の部			
人件費	2,635,327	2,609,145	26,181
教育研究経費	1,378,840	1,338,237	40,602
管理経費	454,459	445,723	8,735
借入金等利息	7,219	7,218	1
資産処分差額	64,620	64,392	227
消費支出の部合計③	4,540,465	4,464,718	75,746
●収支差額の部			
当年度帰属収支差額①-③	360,831	529,898	
当年度消費支出超過額	222,906	50,887	
前年度繰越消費支出超過額	3,936,259	3,936,259	
翌年度繰越消費支出超過額	4,159,165	3,987,146	

【注意】
●記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。
●貸借対照表の注記は省略しています。

3 貸借対照表

この計算書は、決算日における資産及び負債、基本金、消費収支差額の内容及び在り高を明示し、学校法人の財政状態を明らかにすることを目的としています。

貸借対照表

平成24年3月31日 (単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
●資産の部			
固定資産	15,270,950	15,397,590	△126,640
有形固定資産	13,477,349	13,286,241	191,107
土地	551,349	551,349	0
建物	9,931,099	9,599,964	331,134
構築物	656,643	683,725	△27,082
教育研究用機器備品	514,050	527,668	△13,617
その他の機器備品	44,120	57,841	△13,720
図書	1,770,648	1,732,878	37,770
車輛	9,436	10,819	△1,382
建設仮勘定	0	121,994	△121,994
その他の固定資産	1,793,600	2,111,348	△317,748
電話加入権	3,959	3,959	0
施設利用権	16	33	△16
有価証券	9,596	596	9,000
敷金	5,620	5,620	0
差入保証金	4,960	4,960	0
預託金	10,000	10,000	0
長期貸付金	9,047	10,323	△1,276
退職金引当特定資産	1,233,365	1,073,062	160,303
施設維持引当特定資産	50,000	373,213	△323,213
学生寮施設維持引当特定資産	140,100	131,712	8,387
百三十周年記念事業等引当特定資産	234,894	224,212	10,682
高校五十周年・中学三十五周年記念事業等引当特定資産	0	9,169	△9,169
学園財政調整引当特定資産	0	197,446	△197,446
第3号基本金引当資産	92,040	67,040	25,000
流動資産	2,678,068	2,354,500	323,568
現金預金	1,585,855	1,284,575	301,279
補助活動支払資金	294,615	291,411	3,203
研修旅行費等預り資産	120,639	115,528	5,111
未収入金	113,647	77,746	35,900
奨学金引当特定資産	11,484	35,442	△23,958
販売用品	13,517	12,140	1,376
短期貸付金	1,976	1,492	484
篠田学術振興基金引当特定資産	64,272	61,222	3,049
津田学術振興基金引当特定資産	322,016	319,889	2,127
教学振興基金引当特定資産	150,000	150,000	0
立替金	6	3	3
前払金	35	5,046	△5,011
資産の部合計	17,949,018	17,752,090	196,927
●負債の部			
固定負債	1,502,305	1,777,746	△275,440
長期借入金	262,500	306,250	△43,750
退職給付引当金	1,161,878	1,233,365	△71,487
長期未払金	77,927	238,130	△160,203
流動負債	1,252,887	1,310,416	△57,529
短期借入金	43,750	43,750	0
未払金	244,596	258,760	△14,164
前受金	754,175	797,271	△43,095
預り金	210,365	210,634	△268
負債の部合計	2,755,193	3,088,163	△332,969
●基本金の部			
第1号基本金	18,694,932	18,139,147	555,785
第3号基本金	92,040	67,040	25,000
第4号基本金	394,000	394,000	0
基本金の部合計	19,180,972	18,600,187	580,785
●消費収支差額の部			
翌年度繰越消費支出超過額	3,987,146	3,936,259	50,887
消費収支差額の部合計	△3,987,146	△3,936,259	△50,887
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	17,949,018	17,752,090	196,927

創立百三十周年・再興五十周年記念事業 寄付金進捗状況

平成24年6月30日現在

区分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	634	778,347,000	772,607,000
館友	734	81,934,000	79,729,000
篤志家	56	40,020,000	39,900,000
募の会	1,892	101,241,000	101,241,000
企業	109	63,570,000	62,330,000
本法人関係	260	60,372,000	60,132,000
合計	3,685	1,125,484,000	1,115,939,000

周年記念事業につきましては、三十八号で詳細の通りお陰様をもちまして、盛会に終えることができました。ご協力を賜りました皆様には感謝申し上げます。なお、本募金の依頼は昨年度末をもちましたし、お申し込み頂きました寄付金につきましては継続させて頂きます。

創立百三十周年・再興五十周年記念事業 寄付者芳名

宗教界(神社界)
岡山県 十五万円「五万円増額」
熱田八幡宮様

篤志その他
山梨県 五万円
古屋 眞孝様

本法人関係
大学職員 三十五万円「三万円増額」
堀井 史仁様

平成24年度 募の会 総会及び役員会報告

●募の会役員会

五月十二日、午後三時より伊勢シティホテルにおいて、募の会会長並びに清水潔学長の挨拶により役員会が開催され、役員四十名、参与でもある本学教職員十六名で、総会に諮るべき議事について審議された。

●募の会総会

十三日、皇學館大学記念講堂において、文学部

平成二十四年度 募の会役員名簿

役職名	氏名	学生名	学科	学年
会長	柴田 俊一	見治郎	国史	4
副会長	石田 拓也	智紀	教育	4
会計監査	中川 雅司	綾 菜	教育	3
	村 誠	侑衣	教育	4
	中 和	神道	教育	3
	山 幹也	現日	教育	3
	入 美	那知子	教育	4

百五十六名、社会福祉学部四名、教育学部百十六名、現代日本社会学部三十九名の保護者及び大学教職員八十名の出席のもと、午前九時三十分より総会が開催された。平成二十三年度の行事事業報告・決算と平成二十四年度の行事事業計画(案)・予算(案)について承認、新役員には左記の方々が選任され、盛会のうちに閉会となった。



OB・OG 訪問

先輩、お元気ですか



山崎 奈穂氏 保育士

文学部教育学科第四十六期(平成二十三年三月)卒業◆皇學館大学在学中、保育士資格・幼稚園教諭免許・小学校教諭免許を取得。大学卒業後、志摩市の公務員試験に合格し、保育士・幼稚園教諭として勤務。

私は現在、志摩市で保育士として働いています。まだ二年目ということもあり、悩みの絶えない日々ではありますが、子どもたちの笑顔に癒されながら、「あー大変でも楽しい」といった毎日を過ごしています。皇學館では、高校・大学と大変お世話になり、教えきれないほどの大切な思い出があります。私が学生生活を過ごしたころ、先輩・後輩・同級生……素敵な方々と出会うことができました。これらの出会いと経験は、様々な考え方や世界を私に教えてくれました。今、みなさんのそばにいます。これから出会う人への感謝の気持ちを忘れず、一期一会を大切にしたいと思っています。

優しい笑顔とともに声をかけてくださった先輩。いつも笑顔で楽しく話をされるその先輩の姿を見て、私もこんな風にきらきら輝いた人になりたいと強く感じました。以前よりも積極的に人と関われるようになってからは、文化祭の裏方作業や保育研究部会での委員仕事など、学年・学部の垣根を越えた催し物にも何度か参加させていただき、先輩・後輩・同級生……素敵な方々と出会うことができました。これらの出会いと経験は、様々な考え方や世界を私に教えてくれました。今、みなさんのそばにいます。これから出会う人への感謝の気持ちを忘れず、一期一会を大切にしたいと思っています。

8月 イベント情報(8~10月)

- 25日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野特別公開講座「古事記伝兵衛」の立場～浪速の作家上田秋成の論敵～ 高倉一紀 文学部教授
- 26日 史料編纂所 第20回 公開講座(日本書紀・古事記の世界③) 431教室
 - I 「任那」をたずねて 遠藤慶太 史料編纂所准教授
 - II 神功皇后紀と好太王碑文 荊木美行 史料編纂所教授
 - III 三重の采女と伊勢の大鹿氏 岡田登 文学部教授・史料編纂所長

9月

- 1日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野特別公開講座「伊勢の大神宮と式年遷宮」 岡田登 文学部教授
- 8日 月例文化講座 431教室 岡倉天心とアメリカ 眞の国際性とは一 池田久代 文学部教授
- 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 古事記を読む「海幸彦山幸彦」 白山芳太郎 文学部教授
- 22日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 神道と仏教―神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離― 「北野天満宮における神仏習合と神仏分離」 河野訓 文学部教授
- 29日 創立百三十周年・再興五十周年記念特別講座 231教室 世界情勢と日本の課題 東海旅客鉄道株代表取締役会長・本学客員教授 葛西敬之 氏
- 古文書講座 211教室 古文書を読もう!(近世) 上野秀治 文学部教授

10月

- 4日 第19回 現代日本塾 431教室 新渡戸稲造(仮題) 拓殖大学名誉教授 草原克豪 氏
- 6日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野特別公開講座「源頼朝と北条政子は夫婦別姓?」 岡野友彦 文学部教授
- 11日 第20回 現代日本塾 621教室 東日本大震災で考えた事 元国土交通事務次官・本学非常勤講師 青山俊樹 氏
- 13日 月例文化講座 431教室 アホ・バカ分布と日本文化 外山秀一 文学部教授
- 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 古事記を読む「第1代神武天皇・上」 白山芳太郎 文学部教授
- 20日 古文書講座 211教室 古文書を読もう!(近世) 上野秀治 文学部教授
- 25日 第21回 現代日本塾 621教室 比較神話学から見た日本神話(仮題) 学習院大学名誉教授 吉田敦彦 氏
- 27日 神道博物館教養講座 佐川記念神道博物館講義室 伊勢の神宮を語る I―日本文化の源流を考える― 「伊勢神宮の創始と式年遷宮の展開」 渡辺寛 皇學館大学名誉教授・館史編纂室長
- 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 神道と仏教―神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離― 「石清水八幡宮における神仏習合と神仏分離」 河野訓 文学部教授
- 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野特別公開講座「神道の作法～伝統の心と技～(1)」 本澤雅史 文学部教授
- 28日 431教室 第13回 高校生英語スピーチコンテスト

- 各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認ください。
- 共催講座(近鉄文化サロン阿倍野)のみ、有料です。お問い合わせは近鉄文化サロン阿倍野(☎0120-106-718)へお願い致します。
- 神道博物館教養講座は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問い合わせは(☎0596-22-6471)へお願い致します。
- 史料編纂所公開講座は、事前の申込みが必要になります。お問い合わせは(☎0596-22-6462)へお願い致します。
- その他お問い合わせは、皇學館大学企画部(☎0596-22-6496)へお願い致します。

編集後記

◆今号の学園報では、神宮奉納演奏(横丁塾)など、学生が地域で活動する様子が紹介されています。また、学内プロジェクトにおいても、まちづくり活動を推進する宇治山田プロジェクトや、東北大震災の被災者支援を行う「ベカプロジェクト」が公開リリースを行いました。学生が地域と関わりを持ち、地域で学ぶことは、将来に向けて大変貴重な経験となります。また、地域において、学生の斬新なアイデアや若い力に期待が持たれています。本学としても、学生が今後ますます地域で活躍し活動していけるよう、教職員がサポート体制を強化していきたいと思っております。

【企画部】

職員人事

()は旧職

解任 平成24年6月30日付
 法人本部事務局総務部部長 堀井 史仁
 大学事務局学生支援部 実習支援担当課長 松野 高士

兼任 平成24年7月1日付
 大学事務局学生支援部 実習支援担当課長 松野 高士
 法人本部出版部部長 堀井 史仁
 大学事務局学生支援部 実習支援担当課長 松野 高士

兼任 平成24年7月1日付
 大学事務局学生支援部 実習支援担当課長 松野 高士
 法人本部出版部部長 堀井 史仁
 大学事務局学生支援部 実習支援担当課長 松野 高士

兼任 平成24年7月1日付
 大学事務局学生支援部 実習支援担当課長 松野 高士
 法人本部出版部部長 堀井 史仁
 大学事務局学生支援部 実習支援担当課長 松野 高士

中国・天津 南開大学と協定締結



南開大学漢語言文化学院での協定調印式の様子(6月7日)。前列左から4人目が王立新漢語言文化学院院长。

本学は六月七日、教育分野での協力および交流を目的に、中国の南開大学漢語言文化学院と協定を締結した。早ければ、来春にも第一期短期留学生を派遣する予定で、今後の活発な交流発展が期待される。

中国屈指の伝統校

南開大学が所在する天津市は首都北京の南東約百二十キロに位置し、北京とは高速鉄道により約三十分で結ばれる。中国国内に四つしかない直轄市の一つとして、古くから華北工業の中心として繁栄してきた。中でも天津港は中国北方最大の貿易港で、周辺には異国情緒漂う租界地区が広がる。

南開大学は、国家重点大学の一つで、一九一九年に設立。周恩来元首相や温家宝首相が学んだことと知られ、文理二十二学部四十九学科を擁し、総学生数は約二万三千人になる。



多くの留学生が学ぶ漢語言文化学院の校舎

来年二月に留学生派遣を予定

漢語言文化学院は、世界の三十数カ国から約五百名の留学生を受け入れており、日本の大学とも豊富な交流実績を持つ。日本人が効果的に中国語を学修するための独自のプログラムを備えており、語学力の向上のみならず、京劇や太極拳等様々な行事体験

を予定している。国際交流委員会では、来年二月の短期留学生派遣に向け、すでに南開大学側と調整に入っており、十月には学生に対して募集説明会を開始する。留学期間は三〜四週間、費用は二十万円程度を予定している。

には、王立新院長や劉松岩弁公室主任らが、本学からは荊木美行史料編纂所教授(櫻井国際交流委員長代理)、張磊文学部教授、松下道信文学部准教授、西谷豊事務局長、玉田功総務部主任が臨み、友好的な雰囲気の中で、協定書が交換された。



熊野那智大社(和歌山県那智勝浦町那智山鎮座)は熊野三山の一つで、熊野夫須美大神(伊弉冉尊)をはじめとする神々が祭られている。万物の生成・和合を司る存在であり、縁結び、農林、水産、漁業の守護神として篤く信仰されている。御神体として祀られているのは那智の滝(別宮 飛瀧大神)だ。

大松明は毎年七月十四日の

光と炎で御輿を祓い清める

例大祭(扇祭 扇会式) 那智の火祭に際し、高さ八メートルにも及ぶ扇御輿を先導するの用に用いられ、御滝水(大滝)那智の滝において、御輿を火焰で祓い清めるとされている。御滝の姿を象った御輿と一体をなし、火焰は光と炎による火の力をあらわすとも言われている。

佐川記念神道博物館教授 学芸員 岡田芳幸

避難訓練で防災意識をアップ

七月五日、IV講時終了後、学生を対象に二回目となる避難訓練が行われた。地震が発生した想定でアナウンスが流れるのが狙いであった。初めて参加したという国文学科二年の赤塚沙織さんは「友だちが全員無事に逃げる事ができた」と感想を話した。

生たち全員に学部や氏名等を記入する安否確認シートを配布。速やかに安否状況を取りまとめ、学生の安全確保につなげるのが狙いであった。

初めて参加したという国文学科二年の赤塚沙織さんは「友だちが全員無事に逃げる事ができた」と感想を話した。



安否確認シートを配る教職員